

名古屋大学での日々

著者: **Fang-Ting YUAN**

〈名古屋大学大学院理学研究科素粒子宇宙物理学専攻 Ω 研
〒464-8602 愛知県名古屋市千種区不老町〉
e-mail: yuan.fangting@g.mbox.nagoya-u.ac.jp



和訳: 鈴木 建

〈天文月報編集委員会〉

私は一昨年 10 月に中国から日本にやってきました。名古屋大学 GCOE プログラムの博士課程大学院生として Ω 研究室（竹内 努准教授）に在籍し、銀河進化について研究しています。本稿では、名古屋大学での生活のことや、日本と中国での相違点について書きたいと思います。

時はまたたく間に過ぎ、また名大祭の季節がやってきました*1。実を言うと、なぜだかわかりませんが昨年のこの時期は名大祭があることを気づかずに過ぎてしまったのですが……*2。今年は研究室の学部学生の一人が、自分のサークルの出しものも紹介がてらに、案内してくれることになっていました。すごく楽しみでした。

土曜の午後 1 時に大学の研究室で落ち会い、まず手品を見に行きました。結構暑い日だったこともあり、マジシャンは大汗をかいていました。手品ショー自体は特別なものではありませんでしたが、マジシャンは人々を笑わせショーを素晴らしいものにしようと頑張っていました。私は日本語をすべて理解することはできませんでしたが、気づいたら大笑いしていました。

手品の後、自分で小物が作れるブースに連れていってもらいました。そのブースにはたくさんの子供たちが居たので、入るのを少し躊躇しましたが、友達らに促されブースの中の椅子に腰掛けました。先生（実は学部 2 年生でした）に教えてもらいながら、花と紙でしおりを作りましたが、



図 1 友人のために名大祭で買ったお土産。

思った以上によくできたのでかなり気を良くしてしまいました。その後、私たちは別れてイベント会場やブースをブラブラ歩きました。私は中国人の友達を呼び、一緒にキャンパス内を散歩して名大祭を堪能しました。

図書館を過ぎると、食べ物のいい匂いがしてきました。工学部の前の通りはいろいろな食べ物を

*1 訳者注。通常毎年 6 月に開催されている。

*2 訳者注。名大祭は、理系研究室がある場所ではなく、少し離れた場所で主に盛大に行われている。

売る屋台村のようになっていました。友達と私は何か食べたくなり、たこやき屋の列に並びました。しかし、列には大勢の人が並んでおり、日射しがすごく暑くなってきたので、結局私たちはたこやきを買うのをあきらめました。図書館の反対側には、服、首飾りやお面などの小物を売る店が並んでいました。友達は人形が大好きで、いくつも買っていました。私は日本の漫画「ワンピース」が好きな中国人の友達のために、トニートニー・チョッパーの人形を買いました(図1)。

その後建物の中に入ると、コンサート会場で女性4人が歌っていました。歌は素晴らしく、「夏の匂いを聴いているみたい」と友達も言っていました。夕暮れまで、音楽、食べ物や小物の買い物を堪能しました。人々は帰り始めましたが、私は初めてこのような大きな大学祭を見て、まだ興奮していました。

私が南京から名古屋にやってきて、もうすぐ2年が経とうとしています。この2年間で、それまでの人生よりも多くのお祭やイベントに参加してきました。「勇気ある知識人たれ」という名古屋大学のモットーのお陰かもしれません。催し物に参加してきて、日本と中国の共通点だけでなく多くの相違点にも気づかされました。

例えば、毎年5月から6月にかけて行われる、われわれの物理学教室のスポーツ大会を例に取ってみたいと思います。中国では卓球、バドミントン、バスケットボールやサッカーが人気種目です。一方日本では、バレーボールやサッカー、野球の人気があるようです。野球は日本では特に人気があるようで、皆自分の好きなプロ野球チームがあるようです。親子でキャッチボールをしている姿もよく見かけます。7月の炎天下でも、グラウンドでは多くの人々が野球の練習をしています。私はといえば、スポーツ大会で初めて野球をしました。まだルールもよくわかっていません。それでも自分たちの研究室のチームがプレーをしているのを観るのはとても楽しかったので、これ

から野球も好きになると思います。

国民の祝日についても、日本と中国で相違点があります。日中で多くの共通の祝日があることを知り驚きましたが、日本では暦が太陽暦に従っているのに対し、中国では太陰暦に従っています。例えば七夕は日本では7月7日ですが、中国では8月の中旬になります。七夕に関しては、時期だけでなく、人々が行う習慣にも違いがあります。中国では日本よりもより古い習わしが残っているように思います。私の故郷では七夕には赤い糸を買い、子どもたちが家の屋根の上に投げ上げます。鳥たちがその赤い糸を運んでくれて、その赤い糸で橋を作り天の川の兩岸に渡し、織姫と彦星が会えるようになると言い伝えられています。日本でもこの織姫と彦星のお話は有名ですが、日本人は七夕をもっとお祭りとして楽しんでいるようです。着物で着飾った人々が、願い事を書いた短冊を笹の葉にくくりつけ、お願いをしているのを見かけます。今年は名古屋大学の国際宿舎で七夕のお祭りがあるそうなので、楽しみにしています。

情報化社会の現在、違う国の大学に通っていても、大学での生活というものは昔ほど各国で違ったものではないように思います。大学院生達は各々の研究室に所属し、セミナーに出席し、指導教官のもとで研究を進めていきます。そうは言っても、日本の研究者たちの熱心な働きぶりには少しばかり驚かされました。多くの人々が深夜まで働いています。セミナーも多く開催され、発表の担当者はたいへん熱心に準備をします。夏休みも冬休みもものすごく短いです。1年中働き詰めです。

他の研究機関の研究者との交流する機会も頻繁にあります。名古屋大学のGCOEプログラムにより、多くの研究者が招聘され講義が開催されます。大学院生も、国際研究会への出席や海外の研究機関への滞在を、積極的に行うよう推奨されています。私自身も、何回も研究会で発表をしまし

たし、海外の研究者とも実際に共同研究をしています。日本の大学院生や教員の方々は、私のような外国人にたいへんよくしてくれます。これまで多くのことで助けてもらったり励まされたりし、そして私も多くのことを学びました。

名古屋での大学院生生活もあと1年となった現在、去り難い気持ちが芽生えてきています。これからの1年でもっと名古屋大学と日本を理解し、さらなる楽しい経験をできればと思っています。

(訳者注. 英語原文からの直訳ではなく、意識されている部分があります.)

Life in Nagoya University

Fang-Ting YUAN

Ω Lab., Department of Physics, Graduate School of Science, Nagoya University

Abstract: I came from China in October two years ago. Now I am studying evolution of galaxies in Ω laboratory (assoc. Prof. Tsutomu Takeuchi) as a doctor-course student of the GCOE program of Nagoya University. In this article, I would like to write my life in Nagoya University and some differences between China and Japan.